

【生活を守る社会】 持続的な社会基盤の構築： 地球規模課題への対応

現状と課題

- アフリカでは都市の急速な成長と人口増加等に伴い、森林や湿地の消失、生物多様性の減少、人畜共通感染症の脅威が増大している。また環境汚染や廃棄物の急増等の問題も深刻化している。加えて、気候変動により水不足や洪水が頻発するようになり、激甚化も顕著である。
- これらアフリカにおける地球規模課題は、人々の人間の安全保障を脅かし、SDGsの達成が懸念される要因となっている。

今後の取り組み方針

①自然環境保全:

SDGsのGoal 13(気候変動)、Goal 14(海洋環境保全)、Goal 15(陸域環境保全)及びパリ協定を念頭に、自然環境保全を支援する。

【貢献策】「アフリカの森から世界を変えるナレッジプログラム」の立ち上げと自然環境保全の取組の支援強化。

②廃棄物管理:

SDGs11(住み続けられるまちづくり)、12(つくる責任とつかう責任)を念頭に、健康で安全な生活環境の実現を推進し、新型コロナウイルスを含む各種感染症の拡大防止等にも貢献。廃棄物及び水質汚濁管理を主軸として、環境リスクの未然防止・抑制と対策の実効性向上に必要となる行政能力を強化し、ACCPを通じた面的展開を図る。

③持続可能な水資源の確保と水供給:

人口増加や都市化により水不足が深刻化しつつあることも踏まえ、持続的な水資源確保のため、SDGsのGoal6(安全な水とトイレを世界中に)を念頭に、成長する水道事業体を増やし、水資源管理にも取り組む。

【貢献策】資金協力による上水道施設整備・拡張と技術協力による能力強化等を通じた取り組みの推進。アフリカ域内の水道事業体の幹部が集まるフォーラム等の場での活用による学び合いの促進。

④強靱な都市環境・インフラ整備(洪水リスク削減等の防災主流化):

アフリカでは気候変動影響からも洪水・暴風雨の頻度が高まっているところ、統合回廊アプローチ2.0や自由で開かれたスマートシティ(質高インフラ)(都市・地域開発G)と連携しつつ、都市開発及びインフラ整備と表裏一体での災害リスク削減を推進する。

【貢献策】都市部の内水氾濫対策や重要インフラ強化等の無償資金協力事業の案件形成



貢献する SDGs



【生活を守る社会】 持続的な社会基盤の構築： 地球規模課題への対応

これまでのJICAの取り組み



アグロフォレストリーを行うための土地利用計画策定に関する研修を行う地方行政官(コンゴ民)



きれいな街の実現に向けて:最終処分場の運営管理改善を支援(スーダン)



きれいな街の実現に向けて:ごみの分別など市民の環境意識向上を推進(スーダン)



強靱な都市環境: 地滑り対策を行う日本人専門家とカウンターパート(モーリシャス)



持続可能な水資源の確保と水供給:蛇口から出た水に歓喜する子供たち(エチオピア)